

〔特別寄稿〕

## 第10回日本赤十字社臨床衛生 検査学会をふり返って

第10回学会長（福島）

星 岩 雄

平成8年6月1日(土)、2日(日)の二日間にわたって、第10回日本赤十字社臨床衛生検査学会が東北ブロックの担当で、福島市飯坂温泉「ホテル聚楽」で開催されました。全国から56施設、152名の会員の方々が本学会のためにかけて下さいました。

平成5年10月、日赤本社で開催された総会に於いて、第10回臨床衛生検査学会を東北ブロック担当でおこなうということだけ決定されましたが、第9回姫路学会までには当番病院を決めなければならず、地理的には仙台市が適当と思われましたが東北ブロックの事情もあり、福島赤十字病院が当番病院となり、開催地も最終的には飯坂温泉に落ちつきました。その間、会場の関係や講師の先生方の日程調整で二転三転し、6月1日(土)、2日(日)に決定されました。

姫路学会に参加して、次期学会長の「あいさつ」をいたしました。はたして本当に全国学会が福島で開催できるのか、とても不安な気持ちでいっぱいでした。

近畿ブロックは14施設もあり、東北ブロックは6病院しかなく、病院からの援助をお願いするにしても限度がございましたので、まず予算面ですまざりました。幸いなことに常任幹事会で20万円の増額が決定されましたので、少しは運転資金が出来ました。そして忘れてならないのが東北ブロックの少ない会費

の中から、50万円の助成金が支出されたことです。この金額は東北ブロックの年間予算の約2倍の金額であり、いかにこの学会をブロックも応援しているかが伺い知ることが出来ました。

当番病院はもとより福島県支部にも援助の手を差し伸べていただき、当座の運用には間に合うことが出来ました。次に大きな出来事が起こりました。当初の学会出席人数が72名と非常に少なく、これでは学会はおろか、懇親会も極小規模で行うしかなく先細りの学会に成る様な気が致しました。そこで本社での常任理事会でも、会長にお願いして戴きましたが、電話で全国の病院の責任者の方をお願い致しましたところ、前記の様な人数が集まり、どうにか開催の光が見えてきました。その間支出面では極力切り詰め、ほとんどが検査部員のボランティア精神に頼らざるをえない状態の中で、各部のアイデアを出し合い、ミーティングも毎週開きました。その結果が第10回学会へ繋がっていったと確信いたして居ります。いま振り返ってみて総技師数、私をいれましても12名しかいませんでしたので、本当に手作り学会でメインテーマ「原点をみつめて」そのものの学会であったような気が致します。私は、良い友達に出会い、そして部下に恵まれて今とても幸せです。永い間、ボランティアで見えない世界で応援してきまし

たが、こんな形で自分自身に戻ってくるとは考えても見たことがございませんでしたが、人の心の大切さ、重さを感じられた記念すべき学会だったと回想しております。

赤十字に勤務して38年に成りますが、学会を通して感じられたことは言葉では言い表せ

ない赤十字精神が、まだどこかに残っていたのかと考えるのは早計過ぎますでしょうか？

全国の皆さん、本学会を盛会にして戴き有難うございました。機会がございましたら亦いつの日にか福島において下さい。お待ちしております。



【特別寄稿】

## 第10回日本赤十字社臨床衛生 検査学会をふり返って

第10回学会実行委員長（福島）  
中村 郁夫

### 【はじめに】

第10回日本赤十字社臨床衛生検査学会が平成8年6月1日・2日の2日間、飯坂温泉ホテル聚楽に於いて開催されました。

両日とも好天に恵まれ、吉岡 稔顧問を初め佐藤春枝前会長、赤臨技本部役員、北は北海道から南は沖縄まで、全国各地より多数の全員参加をいただき盛会に開催できました。

これも出席会員の積極的な協力と実行委員各位、又、福島赤十字病院検査部スタッフのご尽力により、学会がスムーズに進行ができましたことを、心から感謝申し上げます。

### 【開催経緯と実行委員会の発足】

全国を1巡して、2巡目の東北ブロックの担当となり、平成6年7月の技師長・責任者会議において、地理的に仙台市でとの意見もありましたが、ブロックの事情により福島で、ぜひとの皆様の要請があり、病院長を初め、上司の承諾を得てお引き受けすることになり、第10回（平成8年）の学会開催へ向かってスタートしました。

早速、検査部全体会議を開き、学会開催への協力を話し合い、少人数の部員一同が全力をあげて学会タイムスケジュール表を作成し取り組みました。姫路赤十字病院の堀坂 守課長（第9回学会実行委員長）より充分なる参考

資料をお送りいただき大変お世話になり感謝しています。

その後、実行委員学会運営組織図を作成し、学会長、副学会長、実行委員長、副実行委員長（兼務会計）、総務（3名）、施設（3名）、学術（3名）で発足いたしました。

東北ブロック担当なので他施設の方々も含む役員構成も考えましたが、遠路お出で頂くこと、経費、時間的にも無駄が多くなることを考慮して、当院の技師全員を中心に構成して他病院の責任者の方々には、眞柄 武副学会長（八戸）を除き参与として御協力をお願いし、又、東北ブロック病院から学会開催時の運営委員（22名）の御協力をお願いしご承認頂きました。

### 【学会企画】

学会企画に当たりましては、星 岩雄学会長より学会メインテーマ『原点をみつめて——人々に心の通う臨床検査』が提案され、実行委員会において検討し、学会は、技師にとって技術・学術の研鑽は大切であります、急速な高齢化が進む中、各分野とも多様化の傾向が見られる現在、もう一度原点に帰り、人々に思いやりの心を常に持ち、人間のもっとも大切な『心』について取り組むことに致しました。

(1) 特別講演には、自治医科大学臨床病理

学教授、河合 忠先生をお迎えして、『臨床検査・21世紀への展望』と言うテーマで今後の私たち臨床検査技師の進むべき方向、検査部の抱えている諸問題の解決、21世紀へ向けた展望など未来への大きな夢と指針が示された。

- (2) 教育講演Ⅰには、今一番問題となって居りますところの標準化について浜松医科大学臨床検査医学教授、菅野剛史先生に『臨床検査の標準化について』と言うテーマで、先生の専門分野以外を含めてご講演を頂きました。
- (3) 教育講演Ⅱには、地元福島県立医科大学臨床検査医学教授、吉田 浩先生に『検体サンプリングにおける問題』についてご講演を頂きました。
- (4) 一般演題は37題で、ご応募頂いた演題はすべて口演発表とし、その内容も年々充実して参りました。

時間の都合でお断りした施設数も多くあり、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

### 【 広 報 宣 伝 】

学会開催PRとして、学会ポスターを会期1年前に当院検査部の大竹利典技師が、裏磐梯と五色沼（毘沙門沼）を撮影してポスターに、学会メインテーマ、日時並びに会場を明示してお知らせ致しました。

学会だより1号～3号まで発刊し、第1号は一般演題募集要項、第2号は学会参加のお願い、宿泊申し込み等を送付し、第3号は当院院長、水野 章先生より学会歓迎ご挨拶と抄録集をお配り致しました。

### 【 学 会 の 経 費 】

- (1) 学会を開催するに当たり一番に、運営費

をいかに捻出するかを考え、会場の予約等、すぐ経費がかさむ事がありました。当院水野 章院長より「全国からみちのく福島に来ていただくのであるから、恥ずかしくない学会を開催するように」と全面的なご理解をいただき、即、当番病院として助成金20万円の交付を頂き基金と致しました。

東北ブロック担当なので、当院、上樫宗次事務部長は、ブロック院長、事務部長会議において、助成金のご支援をお骨折りいただき、おかげさまで東北ブロック5施設の病院より助成金25万円のご支援を賜りました。

- (2) 日本赤十字社福島県支部においても、赤十字平時災害救護発祥の地「裏磐梯と五色沼」のポスターで篠田四郎事務局長よりご支援を賜り、助成金5万円の交付を頂きました。
- (3) 協賛メーカーより、抄録集広告34社、パンフレット展示6社、ポスター広告1社、計132万円のご支援を賜りました。
- (4) その他の収入として、学会参加費（懇親会費、祝金含む）174万円、赤臨技本部より助成金80万円、赤臨技東北ブロックより助成金50万円、収入合計4,865,867円となりました。
- (5) 支出の大きいものは、懇親会、抄録集、運営費、会場費等々となっております。

### 【 開 会 式 】

意義ある学会を願う儀式的開会式には、ご来賓に福島赤十字病院水野 章院長をはじめ、日本赤十字社竹下 修病院経営対策課長、日本赤十字社福島県支部篠田四郎事務局長、福臨技本多信治会長、赤臨技顧問吉岡 稔先生、同じく赤臨技特別会員（前会長）佐藤春枝

先生ら多数の方々をお迎えして、学会長である星 岩雄より、学会開催の挨拶を行い、続いて赤臨技笠井直幸会長よりご挨拶を行い、水野 章院長、竹下 修課長、篠田二郎局長、本多信治会長のご祝辞として、激励、歓迎の言葉を頂き、深田靖彦次期学会長の松江学会への招待の挨拶で盛大に行うことが出来ました。

### 【 懇 親 会 】

懇親会は、来賓の水野 章院長（福島）、上楢宗次事務局長（福島）、八津尾和成総務次長（本社）、竹下 修課長（本社）、渡辺 隆次長（福島支部）、特別講演の河合 忠先生、教育講演の吉田 浩先生のご参加を頂き、当院上楢宗次事務局長に歓迎のご挨拶をしていただきました。

鏡割りを、星 岩雄（学会長）、笠井直幸（赤臨技会長）、吉岡 稔（顧問）の3名の方々に力強く鏡割りをし、佐藤春枝先生（特別会員）に乾杯の音頭をお願いして、会を盛り上げていただきました。

アトラクションは福島に昔から伝わる霊山太鼓で、より一層会は盛り上がり、全国の会員から病院検査部においての色々厳しい情勢での情報交換、親睦、困難打開策と話も尽きなく、時間の経つのも忘れ、名残を惜しみながら閉会と致しました。

### 【 学 会 参 加 者 】

本学会の参加者は218名でした。

一般会員	152名（59施設）
来 賓	10名
招 待 者	8名
関係各社	48名

一般会員参加者のブロック別は北海道8名、東北38名、東部47名、中部20名、近畿18名、中国6名、四国8名、九州7名、合計152名、懇親会には210名のご参加を頂きました。

### 【 お わ り に 】

今回学会を担当するに当たり、技師数わずか12名の小規模病院ですので、不安が一杯でしたが、当検査部全員が一丸となり、楽しい学会にしようと各委員の方々の献身的な協力で、本学会のメインテーマ『原点をみつめて——人々に心の通う臨床検査』のように、常に、心の通う気持ちで、実行委員会を重ねていく中で、委員の意識も高まり、徐々に輪郭もはっきりと見えてきました。又、自信も湧いて、次に、心にゆとりを持ち、学会成功に向けて全力投球で頑張ってくださいました。実行委員をはじめ、担当病院水野 章院長、又、東北ブロックの各病院長先生方のご理解とご支援を頂き、感謝申し上げますとともに、今後の日本赤十字社臨床衛生検査学会が実りあるものとなりますよう、関係各位のご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、学会開催に当たり、ご指導頂いた福島県立医科大学附属病院臨床検査医学教授、吉田 浩先生に深謝致します。